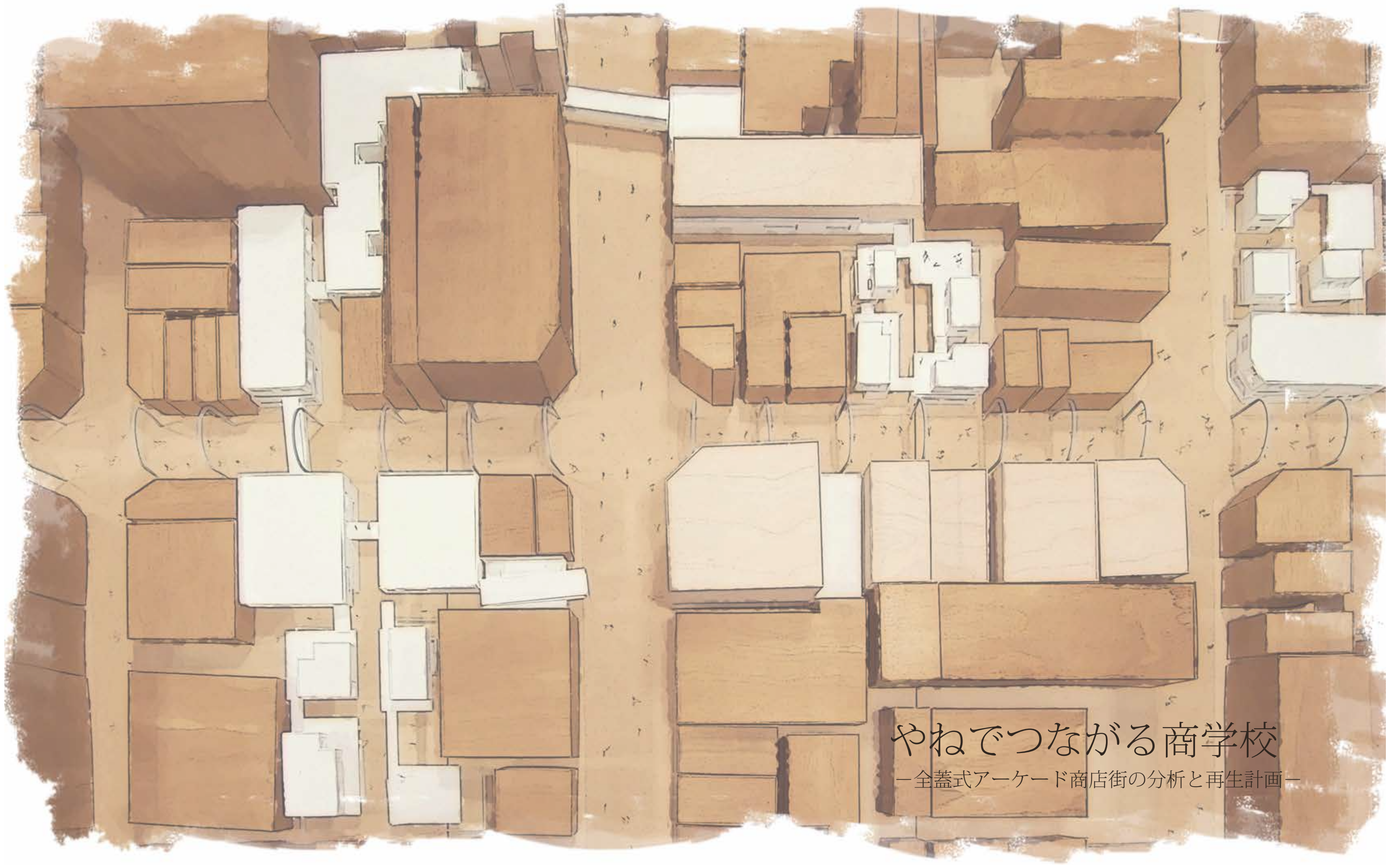
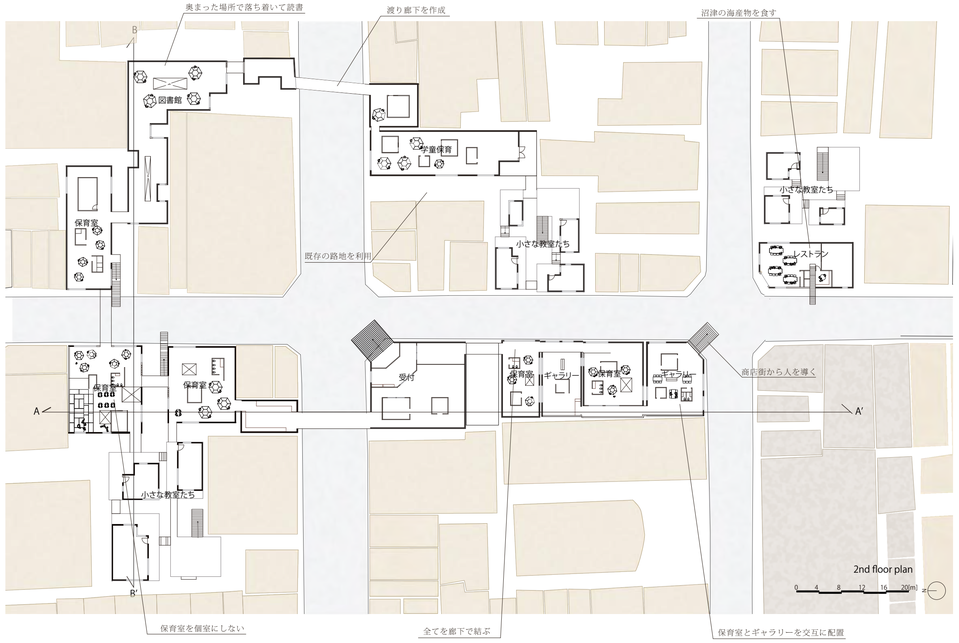
y10006　市川瑠美



やねでつながる商学校

―全蓋式アーケード商店街の分析と再生計画―



保育室を結ぶ通路

既存の路地もそのまま利用

商店街の途中にはベンチ

アーケードの屋根はリズミカルに

小さな教室を望む

図書室にはテラスがある

魚屋さんで夕飯の買い出し

保育施設はできるだけ仕切らない

育児支援施設も併設

□ introduction

郊外型ロードサイドショップや駅ナカ商業施設の増加等により街の商店街は来客数が減少し、空き地・空き店舗が増え、かつての住民にとって必要不可欠だった地域に密着した商店街の意義が失われ、衰退の一途を辿っている。

しかし高齢者や子供などの買い物弱者にとって電車やバスなどの公共インフラ大切な「足」でありその周辺も生活空間として非常に重要である。

数ある商店街の中でも自身の興味がある「駅前」「全蓋式アーケード」「公共施設」をキーワードとして取り上げる。

□ research

東京近県の全蓋式アーケードを持つ駅前商店街の敷地調査を行い、キーワードを 24 個抽出した。

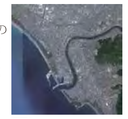
1	小さな広場	9	高齢者施設	17	一体感
2	コンバージョン	10	ビジネスホテル	18	井戸端会議
3	一休みのベンチ	11	路地	19	学校
4	通りの真ん中に商品	12	情報発信	20	離れた住居
5	駐車場	13	大型店	21	個人商店
6	さまざまな飾り	14	連続店舗	22	買い物交流
7	歩行者専用	15	２階以上	23	店先学校
8	開閉式アーケード	16	単調な屋根	24	複合建物

□ site

◆沼津について

沼津は人口 20 万人を有する静岡第３の都市である。そして東京への通勤・通学が公共交通により可能となっている地域であり鉄道利用客は一日平均２万人となっている。

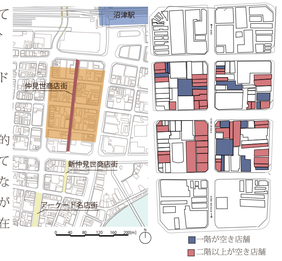
現在、駅前には人を滞留させる機能がほとんどないが駅を中心とする多くの再開発が計画されており駅前空間を重用視している場所であると考えられる。



◆仲見世商店街について

JR 沼津駅から徒歩２分の距離に位置する南北 250m の全蓋式アーケードをもつ駅前商店街。

地方都市としては比較的賑わいをみせており、全てが空き店舗という店は少ないが２階以上に空き店舗が入っている状態が多く存在した。



□ program

―アーケード商店街の一体感を利用した子ども園及び異世代交流施設の提案―

01. 大きな学校

商店街のすみずみが学校。こどもたちは校舎の中だけではなく商店街全体を縦に横に駆け回る。
商店街自体が大きな屋根を持ったひとつの校舎となる。

02. 色々な先生

子供たちの「先生」は地元のおじいちゃんとおばあちゃん。みんなが人よりちょっとだけ得意なことの「先生」となる。

03. 賑わいの持続再生

買い物客だけではなく様々な年代の人々が商店街に集まることにより賑わいが持続される。

□ diagram

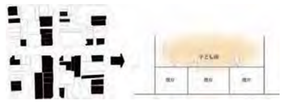
◆小さな教室

01. 空き店舗をプロットし、大きく抜けた空間を「小さな教室」に小さく抜けた空間を「路地」に更新する。すると今まで街区のナカだった部分がオモテになる

02. 教室の壁を一枚はがし、内外のあいまいな空間をつくる

◆保育室

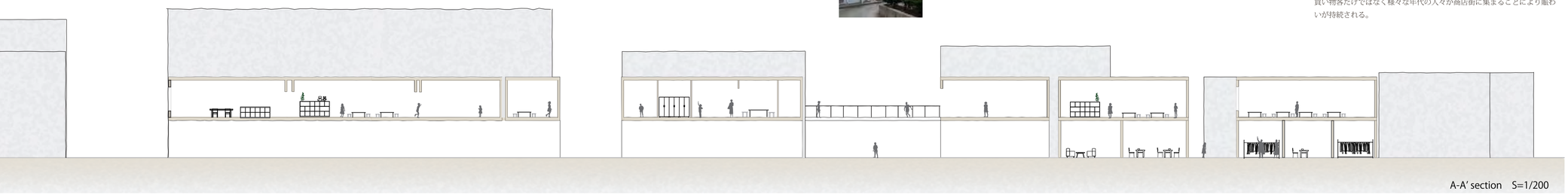
01. ２階以上の空き店舗に保育施設の機能を埋め込む



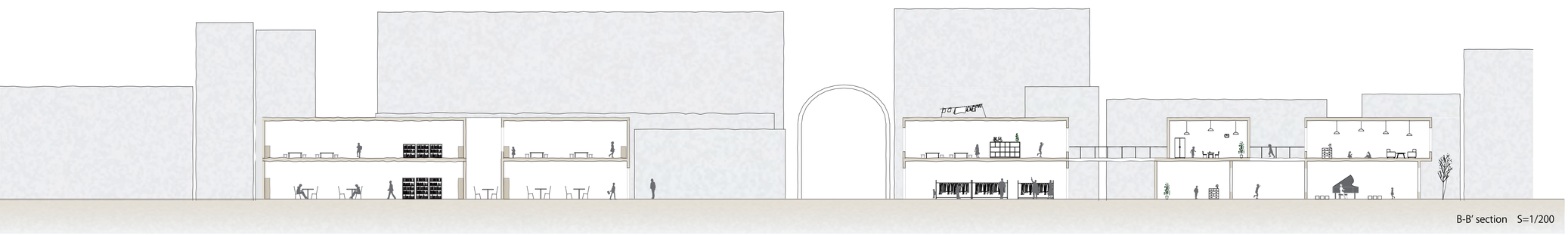
02. 各保育室の仕切りで空間を区切るのではなく倉庫やトイレといった要素を先に配置し、その周囲を保育室の用途とする

◆アーケード

単調な屋根に変化を持たせるため高さに差をつける



A-A' section　S=1/200



B-B' section　S=1/200